

第16回全日本ユース(U-16)水球選手権大会－桃太郎カップ－【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2023/12/24】

この試合のプレー集計

男子Bリーグ戦

大阪選抜 16

7	—	3
4	—	3
3	—	1
2	—	5

12 富山県選抜

PSO

審判： 潮崎 正一
御崎 智徳

大阪選抜	25	SH数	26	富山県選抜
	0	速攻数	0	
	8	ST・SB	7	
	6	SH・P誘発アシスト	3	
	29%	GK阻止率	16%	
4	EX反則数	7		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

初戦では両チームともに精彩をやや欠いただけに、どこまで立て直してこの試合に臨めるか。大阪はセンター⑦赤木と⑤仁木とが機能した攻撃でペースをつかむか、対する富山は攻撃権のある中でテンポアップしていけるかどうか勝負の分かれ目となりそうな一戦。

【1P】

開始早々、富山がペナルティを誘発して⑩流が決めて富山が先制。大阪がその直後、富山ゴール前での混戦で大阪⑩藤川がボールを拾ってシュートを決め、さらに戦前の予想通り、ここから大阪⑦赤木と⑤仁木が機能した形で連続得点(大阪4-1富山)。富山もゴール前で再びペナルティを誘発して2点目をマークしたが、大阪が⑦赤木が決めて追加点。さらにボールキープできる⑤仁木が相手を引き付けたところに生まれた隙を⑩藤川が決めて6点目。続いて大阪がペナルティを誘発して⑤仁木が決め7点目。富山が最後に1点を返して、大阪7-3富山と乱打戦の様相で第1ピリオド終了。

【2P】

富山の最初の攻撃で②森が決めて1点を返し、さらにペナルティを②森が決めて大阪7-5富山と点数的に詰め寄った。しかし、ここでも大阪⑤仁木が突き放すシュートを決めて3点差。その後、このピリオドも点の取り合いとなり、大阪11-6富山で前半を折り返した。

富山ディフェンスはインマーク意識はあるものの、攻撃選手の利き手へのプレッシャーがなく、簡単にボールが回ってしまっていて、ボールキープ力のある選手にとって有利な状態が続いている。対する大阪側のディフェンスは、マーク意識が弱い「下がり」位置取りのため、パスやシュートの選択肢を与えすぎている状況だ。後半ではどこまで改善できるか。

【3P】

双方のディフェンスは改善されないまま、両チームのボールは次々に回るが、パスやシュートの精度で大阪が上回り、このピリオドも大阪優勢。大阪14-7富山と、ダブルスコアで第3ピリオド終了。

【4P】

ゴールラインの締め具が故障して一時試合が中断するアクシデントがあったが、最終的には大阪16-12富山で大阪がリーグ戦1勝をあげた。敗れた富山はこの第4ピリオドで見せたような、中盤でのプレスディフェンスでの圧力が十分通用することを理解したと思われる。残り1試合でのディフェンス面の改善に努め、成長の足跡のを残すことを期待したい。